

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200215		
法人名	社会福祉法人 早川福祉会		
事業所名	藤園苑 グループホームひびき		
所在地	富山県高岡市早川388番地1		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成29年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「あなたらしい暮らしをいつまでもお手伝いいたします」を掲げ利用者様を家族様と共に支え、お互い情報交換共有を行い、健康で穏やかに過ごしていただく為の環境作りに取り組んでおります。可能な限り「やりたい」「行きたい」という思いに沿ったケアを心掛け「ふらっと散歩」を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念『あなたらしい暮らしをいつまでもお手伝いします』は、日頃より反復する機会を持ち、職員一人一人の意識づけを強化して、その人らしさを大切にケアに取り組んでいる。理念に基づいた職員の姿勢は、家族からの信頼も得て、家族から忌憚のない意見要望が聞ける関係が構築されているとともに相互間での情報共有が行われ、それらは本人の状況にあったサービス提供につながっている。
職員は、サービスや運営について、フロアリーダーによる年3回の面談やスタッフミーティング等を通じて意見や要望をいえる機会があり、それらは必要に応じ運営やサービスに活かされており、職員のモチベーションのアップにもなっている。また、処遇困難な事例には、スタッフ全員で話し合いを行い、解決策立案と対応への効率的なプロセスを組み、その人らしさを尊重し見守る支援を行うための良好なチームケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに職員の心構え、理念方針を目的のつきやすい場所に掲げている。又、苑全体の朝礼で職員の心構えを復唱している。	「理念」と「心構え」は玄関に掲示したり、入所パンフレットやひびき通信に記載し周知を図っている。また、職員間では、理念に基づいたサービス提供が実施されているかを年度初めに振り返りを行い、理念に沿ったサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元新聞を元に地域行事(ふれ愛喫茶、敬老会等)学校行事(運動会、学校祭等)に参加し、地域の方々と交流を図っている。又、定期的にひびき新聞を地域に配っている。	毎月発行される地域の情報案内「はやかわニュース」をもとに敬老祭り、夏祭りなどの地域行事、近隣中学校の運動会や学校祭などに参加したり、早川福寿会の開催する「ふれ愛喫茶」に毎回参加し、地域の方々と交流を深めている。また、年4回発行のひびき通信を地域に回覧して頂き、事業所の情報発信にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生が地域の高齢者、認知症の方との触れ合い方を学んだ事を学校寸劇で発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を重ねる事により当苑の取り組み等に理解を得られており、積極的に情報やアドバイスを頂いている。又、利用者家族の参加があり、思いを話していただき充実した内容になっている。	隔月開催の運営推進会議では、自治会長、自治会女性部、早川福祉協議会評議員、地域包括職員、家族会代表者2名の参加があり、地域と施設との情報交換や意見提案を頂くなどしている。今年度は、避難訓練への家族参加の要望があり実践した。地域、事業所、家族が各々が出来ることや役割について再確認することができるなど、会議での内容が事業所の活動に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者には介護現場の厳しい現状を伝えている。管理者、計画作成担当者の勤務体制も柔軟になっている。	保険者には研修時や機会あるごとに介護現場での現状を伝え事業所の実状を知って頂いている。制度を利用して人材の確保ができないのか、研修体制や処遇困難な利用者への相談や問い合わせなど、いつでも相談・助言をいただく協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアは家族職員は理解している。個々の認知症状により、安全面から家族の了解を得てエレベーターは常時施錠している。	事故対策・身体拘束委員会が中心となり、身体拘束に関する研修会を年1回開催している。入職3年未満の職員には必須研修となっているが、その他の職員も振り返りのために随時研修に参加し、身体拘束をしないケアの理解に努めている。ただ、入居者の安全を確保する観点から家族の了解を得て、エレベーターは常時施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内勉強会に参加。大小関わらず、あざ、傷ができていないか観察し故意的なのか検討し状態を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用中の利用者がいる。独り暮らしの人が増えてきていることもあり、遠方の子供や親族に説明提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族及び身元引受人に対し契約書、重要事項説明書の内容説明を行いサイン、捺印貰っている。定期的に意思確認を要する物は書類を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時に生活状況を伝え職員家族間の意思疎通を図っている。聞き取った意見は全て吸い上げサービス運営に生かしている。	運営推進会議や家族会総会等でいただいた、家族からの意見・要望は職員間で情報共有し、運営に活かしている。また、面会やケアプラン見直しの面談時などを利用して、日頃の本人の生活状況を伝え家族の思いを伺っている。家族との意思疎通を図りながら、表出された意見要望をサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会、年3回の個別面談時に意見や提案を聞き取っている。日常の業務の中でも職員間で意見や提案が出来る環境にある。	月1回の勉強会やユニットリーダーの個別面談の際に、職員から意見や提案を聞き取っている。また、日頃からコミュニケーションを円滑に保ち職員が意見要望を言いやすい環境に努めている。それら聞き取った職員からの意見は、スタッフミーティング等で話し合い改善策を検討し、日常業務に反映するとともに、職員のモチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が目標管理シートを記入し明確化している。過酷な勤務にならないよう考慮し勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合わせ定期的に外部研修に参加している。勉強会で研修報告し皆に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会研修に参加、情報交換の場として交流を図っている。実習生受け入れの際話を聞いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話から思いを探り、実現可能な事はしっかりケアに繋げている。ただ傾聴するだけに留めない様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の書類記入をお願いし家族背景等を把握し要望を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	独歩であっても歩行不安定であれば今後の見通しやその方にあった歩行器使用を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業、会話する事で時間の共有に努め笑顔で「ありがとう」が飛び交う場になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に利用者を支えていく為に情報交換を密に行い、利用者の状態、変化の把握を家族にしてもらいたい思いから受診は家族に行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内が他サービス利用中であれば顔を見に行く等の動きをしている。月命日に自宅へ行く、馴染みの美容院に行く事で関係を保っている。	家族の協力を得ながら、通い入れた美容室へ出かけた時、月命日に合わせて自宅までの外出、買物などしている。また、法人内のデイサービスに本人の知り合いの方が利用されている時、本人の要望があれば面会に行けるよう、気軽に出入りできる環境を作り、馴染みの関係が継続できる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも同じ人と場所ではなく必要に応じ席替えを一人一人が快適に過ごせる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後亡くなられた利用者の家族より、時折電話が掛かってくる。相談等ではないが答えられる範囲で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てにおいて干渉されたくない方がいる。手を差し伸べなければいけない状況が多々ある。本人のストレスにならない程度に見守り介助を行っている。	面会時に聞き取った家族の思いや、日頃の関わりの中で汲み取った本人の意向を、連絡ノートに随時記載し、日々のミーティングにおいて職員間で情報共有している。また、担当者が中心になり、それら把握した本人の思いと個々の利用者の生活歴や志向を照らし合わせ、利用者本位のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	転倒予防だけではなく馴染みの暮らしに近づける為、畳に布団、リビング近くに常に人の気配、テレビの音が聞こえる環境を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、健康チェック表、日常生活表を確認し他職員との情報共有、利用者との関わりの中で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化があった場合、家族から話があった時は担当者だけが考えるのではなく、都度ミーティングを行い常に状態にあったケア実践に努めている。	モニタリングや計画の見直しは3か月に1回行われている。状態に変化がある場合はその都度、ご家族と本人と状況を確認、担当者会議を開催し、見直しを行い、常に現状に即したケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は詳細に行い気付きは申し送りに落とし、全職員が周知するようにしている。必要に応じ家族を通して主治医に相談し見直しケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診を家族立会いにて往診で対応している。又、レベル低下、家族背景の変化に伴い早めの特養申し込みを勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区自治会主催の行事、学校行事参加企画提案で利用者は楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医受診を継続しており家族が付き添っている。ケース記録を持ち寄り家族を正しく伝え、適切な治療が受けられるようにしている。	利用者や家族の要望を受け、基本的に在宅時からのかかりつけ医を受診継続している。受診時は家族が同行し、その際には、かかりつけ医に日頃の様子や2週間から4週間分のバイタル表等を情報提供し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜状態報告を上申し指示を仰いでいる。又、24時間医療的対応のアドバイスを受けられる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書、看護サマリーのやり取りでお互いスムーズに治療、ケアが出来るようにしている。途中経過の把握の為面会に行き退院後のケアに繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない事は契約時に説明している。同時に早めの特養への申し込みを提案している。	契約時、重度化した場合における事業所としての対応を説明し、看取りを行っていないことに同意を得ている。重度化した場合は、医療行為が出来ない事を丁寧に説明しながら、早い段階でかかりつけ医・家族と話し合いの機会を持ち、ご家族の意向を伺い本人にとって一番最適な方法を提案している。	契約書の中に重度化したときの対応について説明をされているが、事業所として「重度化に対する指針」を策定されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のフローチャートを見やすい所に掲示している。救命講習でAEDの使用方法を習得し急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム単独で避難訓練実施は継続。地域の防災訓練にも参加している。今年度は苑全体の避難訓練に地域の方の参加があった。	奇数月の第3水曜日に避難訓練のシナリオや担当者を決め実施している。外部参加者にも入居者の身体状況が把握しやすいよう情報を記載した一人一人のブラカードを作成するなど工夫し、実践につながるよう努めている。日頃から地域の防災活動に参加したり、安全衛生委員会が中心となり食料等備蓄状況の管理、地域の防災訓練の開催日に防災食として実際に利用者の方に提供するなどの活動が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接遇方法を配慮して対応している。慣れ親しみすぎて、あだ名等で呼ぶことがないように努めている。	職員は、年間研修計画の中でプライバシー保護、倫理に関する研修を通し、言葉遣いや接遇方法について学ぶ機会があり、個々に合った対応の仕方を模索し尊厳を守るケアの実践に努めている。日々の関係の中で利用者の方と慣れ親しみすぎて本人の尊厳を損ねることがないように、日々のミーティングで確認し職員間で注意喚起を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思決定が出来る様な問い掛け、選択肢を設け声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「できる事はして頂く」を基本にやりたい事をして頂くことを優先に過ごしている。ただ、「行きたいところ」への支援は難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替えは自分で服を選ぶ、又は、職員と選び着替えている。化粧をしている方もおられる。衣類の汚れは直ぐ更衣する等身だしなみに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	口から食べる事を継続してもらう為、嚥下体操を食前に行っている。食事前のテーブル拭き、食べ終わった食器を運ぶ事は自らの意思でされる方が多い。	同敷地にある法人の特別養護老人ホームの厨房調理員が、月に1~2回ボランティアで来訪、特別メニュー(おせち、フクラギの解体ショーなど)を利用者の目の前で調理し、目や匂いなどで楽しむ機会を設けたり、誕生会にご家族を招待し、一緒にお祝いする機会を作ったりなど、創意工夫がある。	法人内の管理栄養士が作成した献立があり、食材が支給されているため、グループホーム独自の食事のメニューづくりが難しい状況下ではあるが、利用者の方の要望や季節感のある食事をより実現できるよう、主食を変わりご飯にしたりするなどの工夫する取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量(1000cc)をチェック表にて確認している。確保できていない、出来そうにない場合は嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きができる方には声掛けし部屋で行ってもらい、介助又は確認、見守りが必要な方はリビング内洗面所で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の状態を把握している。自排尿がほぼない方でも便器に座ることは継続している。排便を促す為体操、オリゴ糖、ファイバーを日常的に摂ってもらっている。	排泄チェック表にて個々の排泄状況を確認し、本人のリズムに合わせた声掛けや誘導を行っている。自排尿のない方に対しても本人の仕草やサインなどをキャッチし、便座へ誘導し、トイレでの排泄を促す支援を行っている。オリゴ糖やファイバーを日常的に摂取したり、おやつにヨーグルトなどを積極的に提供するなど、便秘を予防するための工夫も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸を目覚めさせる為、個々の嗜好に合わせた冷たい牛乳、ヨーグルトを勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、入る入らないの決定は自分でしてもらっている。浴室の温度、入浴時間も可能な限り選んでもらっている。入浴が楽しめるように入浴剤を使用している。	最低週2回の入浴を原則に、入浴チェック表を確認しながら、本人の体調や希望に応じていつでも入浴可能となっている。入浴剤は男性と女性で好みの色を使い分け色や香りを演出し、リラックスしていただけるよう配慮したり、冬は干したミカンの皮を湯船に入れるなど、季節感を楽しむ工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠状態、下肢の浮腫みがある場合は部屋で休んでもらうようにしている。昼夜横になった際の部屋の温度は個々に合わせた温度設定を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルが直ぐ確認できる場所に置いてある。服薬の際はスプーン使用、飲み込み確認を徹底している。薬の変更があった場合は、様子観察を強化し詳細記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみが役割として定着している。季節毎の貼り絵では思い出話が飛び出すなど楽しい時間を過ごしている。定期的に回ってくるカラオケは楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、地域行事に出かけてはいるが、日常的に全員が平等に外出する事は難しい。今年度は行きたいと思ったら行くと言う「ふらっと散歩」をしようと決めたが気候、気温で後半は実施できていない。	地域で開催される行事への参加や買い物のほか、利用者の方が手軽に出掛けたいという思いをくみ取り、「ふらっと散歩」と名付けた取り組みを行っている。利用者の体調や天候に応じて、希望の場所へと外出の機会を増やし、出かける楽しみを感じていただけるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より毎月預かり金を頂いており、欲しい物があれば職員と一緒に買いに行き、支払いをしてもらっている。基本個々でお金を持っていることは無いが、持っていないと不安である方は1000円持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば職員が電話をかけ本人に代わっている。電話相手は殆ど子供である。年始には年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉢植え、花を飾り季節感を感じてもらえる工夫をしている。2階という事もあり日差しがたっぷり入り常に明るい空間で過ごしてもらっている。	明るく広々としたリビングには鉢植えや花が飾られ、室内にいても四季を感じられる。壁面には、季節ごとのクラフト作品や外出や行事の様子を写した写真などが掲示しており、会話のきっかけともなっている。また、フロアごとに利用者の状態に応じ掲示物の位置を高くするなどの工夫が見られ、さりげない配慮がなされている。温度・湿度・光彩の調整には常に配慮し、過ごしやすい環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士の会話が楽しめ、職員とも気楽に落ち着いて会話ができる様テーブル、ソファの位置を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の心身の状態、好みを考慮しベッド、畳を選び、今までの在宅生活に近い環境になるよう家族とも相談し環境整備に努めている。	居室は、家族の方と相談しながら、本人の状態に合わせた家具の配置に配慮したり、馴染みの家具や使い慣れた道具を持ち込み、本人が安心して過ごせる居心地の良い空間になるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事できないこと、出来なくなった事をしっかり把握し、リスクを最小限に留めた対応に心掛けている。		

(別紙4(2))

事業所名 藤園苑グループホームひびき

作成日: 平成 29年 2月 5日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	利用者個々の居住地行事への参加 利用者発信の外出が出来ていない	個々の想いに沿った外出で「ふらっと散歩」を実施し、満足度アップに繋げる	想いを引き出すコミュニケーションを行う 実行する為の職員間の話し合いを随時行う	12ヶ月
2	35	地域の方を交えた災害対策、方法が 確立されていない	昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に地域との協力体制を築く	定期的(2カ月に1回)に避難訓練を行う 避難方法の手段を取得 移動手段を記載した名札の見直し 近隣、家族等の訓練参加の勧め	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。